

使用済みの食用油をバイオディーゼル燃料(BDF)として再利用する取り組みを進め、地球温暖化の防止に努めている企業が長田建設(株)です。同社は昨年三月、独自にBDFの製造プラントを整備するなど、積極的な取り組みを行っています。エコ活動に関心の高かった同社は、黒煙の量が減り、排気ガス中の硫黄酸化物をほとんど含まないなど、BDFの特長に注目し、一年ほど前に「NPO法人秋田菜の花ネットワーク」に参画。

BDFを製造するプラントは社屋に隣接して設置され、トラックなどの作業車四台の燃料となり、CO2の削減が図られています。昨年、ネットワークの活動として矢島地域桃野地区内のおよそ三割の畑に菜種をまき、今年は菜種の搾油を行う計画です。

BDF事業に取り組み社内チームのリーダー・長田陽一副社長は「プラントは月産千八百リットルほどの処理能力がありますが、ひと月の廃食油の回収量が四百リットルであり、稼働率の向上が課題です。町内会や団体などにご協力いただき、廃食油を提供してもらえればと願っています。製造過程で副産物として発生するグリセリンを、ビニールハウスのポリイソ燃料に利用する研究も行っています。環境にやさしい取り組みを地域と一緒に進めていきたいと考えていますので、ぜひご協力をお願いします」と話しています。詳しくは同社まで(2210722)

**BDF事業へ積極的な取り組み  
長田建設(株)、独自にプラント整備**



本紙昨年六月一日号に、矢島高校(伊藤成年校長)の一年生が地球上に優しい活動をテーマに、市民農園で菜の花の栽培に取り組んでいることを掲載しました。その続きをご紹介します。

七月上旬に二十リットの畑で刈り取り作業を行い、約六十割の菜種を収穫。脱穀・乾燥のち、NPO法人「秋田菜の花ネットワーク」会員の指導を受けながら、九月二十四日から二日間かけ、約二十四割の菜種油を搾りました。

搾油機で抽出した油に触れ、生徒は「とても香りがいい」などと話しながら、一粒の種の重みや収穫の喜びを実感。搾りかすも食べられると聞き、手触りや味を確かめる生徒の姿も見られたとのこと。搾った菜種油は十月の文化祭の際に屋台で使用され、その後、家庭科の調理実習でも利用されることになりました。

同校では、今後も総合的な学習の時間で活動を継続していく予定。また、一年生は鳥海山での間伐作業や子吉川での水質調査などにも取り組んでおり、体験することで、より深く、身をもって学ぶことができ、生活に対する意識も高まる。私たちの生活を守る自然、その自然の生態系に配慮する「こみを減らすなど、環境保全に対するふだんの心がけが身につくことが学習の成果」と強調。

この学習を通して「生徒は、菜の花のように色鮮やかな、自然を大切に「する心」を育んでいます。



**矢島高校の総合学習で「地球に優しい活動」  
栽培した菜種で34リットルの油を抽出**



- ◆家電製品を使用しない時はコンセントからプラグを抜き、待機電力を削減。
- ◆不要な照明や見ないテレビは消す。
- ◆冷暖房の使用時間の短縮を心がける。
- ◆エアコンの温度設定を1度変えるだけでも効果大。
- ◆部屋を片付けてから、掃除機を使用する。
- ◆追い炊きなくても済むよう、間隔を空けずに入浴する。
- ◆お風呂の残り湯を洗濯に使用するなど、節水を。
- ◆買い物袋(マイバッグ)を持参し、レジ袋は断る。
- ◆牛乳パックや食品トレイは、スーパーなどの回収ボックスへ。
- ◆冷蔵庫に食品などを詰め込みすぎないように注意。
- ◆割り箸など、使い捨て製品の使用を控え、こみを減らす。
- ◆自動車を利用の際はアイドリングストップ(停車時のエンジン停止)を。
- ◆なるべく公共交通機関を利用する...

**皆さんは、やっていますか? 暮らしの中の eco**

みんなで進めよう♪



二酸化炭素の排出削減や化石燃料・電気の消費抑制、自然エネルギーの利用促進と資源の再利用など、環境への負荷を減らすための活動などを意味する「エコ」。

市内のさまざまな分野で、地球と環境にやさしい取り組みが進んでいます。



講演する小田島さんと聴講する女性の皆さん

小田島会長は「ふだんの生活からレジ袋をなくすことが地球のためのエコ活動。傘の生地は雨に濡れても大丈夫なので、エコバッグに最適。みんなで自作すればいい」と提案し、「地球の温暖化を女性の力で止められないか。この活動自体はささやかでも、大事ではないかと思っています」と強調しました。

参加した百三十人の女性たちは共感しながら聞き入っていました。



**古傘利用のエコバッグづくり学ぶ  
消費者問題研究会で**

豊かな地域社会の実現を目指す市婦人団体連絡協議会は、十一月十八日、こもにを進める安心して暮らせる生活環境づくりをテーマに西目公民館で消費者問題研究会を開催しました。

この中で、横手市連合婦人会長・小田島みや子さんによる「古い傘から買い物袋を作る活動」の講演が行われました。

同市の朝倉婦人会が十年以上にわたり続けている活動で、一本の傘から二枚のエコバッグを作らせることを、現物を掲げながら紹介。



**機動性重視したエコカーへ  
市長用車をハイブリッド車に更新**

主に市長用として使用する公用車として、新たにエコカー(環境対応車)のミニバンを配備しました。地球温暖化の防止に配慮したハイブリッド車で、災害現場への出勤など、乗り合い利用による機動性を重視した、七人乗りの四輪駆動車です。

これまでの車両(副市長用)は登録から十三年が経過しており、購入にあたっては、エコカー減税など、国の優遇制度や県の経済対策交付金を活用しました。

大きな特長は、モーターとエンジンを用いたハイブリッドシステムによる燃費効率。ハイオクから燃料単価の安いレギュラーガソリンとなったうえ、燃費が十五〜二十割とアップしました。車体の色も軽快で行動的な白に。

燃料費に支分の抑制とともに、市出どころからエコ活動を進めています。

